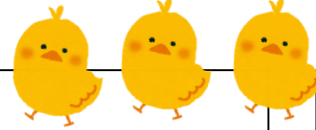


過ぎし方のヒント

2021. 2. 12



比べなくても
だいじょうぶ…



ぼくのペースで行くよ。

待ってー



1 さんぽ

学校では、どの学年も、図工の時間に、様々な作品作りにチャレンジします。それぞれ、学習指導要領に沿って、学年の発達段階に合わせた方法で、立体作品や版画等に取り組んでいます。子どもの発想は本当に豊かで、見ていて教えられることがたくさんあります。版画は、原版と刷り上げた作品が左右反対になるので、作った感じと刷った感じが随分変わります。それは、楽しみでもあり意外でもあり、面白さの一つだと思います。しかし、二次元の絵をいったん三次元に変換するのが難しい作業になります。どう貼ったら目がうまく刷れるのか、どう彫ったら立体感が出てくるのかを想像することは、利き手の反対の手ではさみを使うようなもどかしさ、わからなさがあります。立体作品も同様です。

このような空間を感じ取る力を、空間認知といいます。この力は、図工やスポーツだけに必要な力ではありません。なんと、コミュニケーションにも大切なのです。自分も含めた人と人との物理的・心理的な位置関係を把握し、その中で適切に振る舞う能力、自分を客観的に把握する能力にも深く深く関係しています。

それを楽しみながら高められるのが、「散歩」です。目で見て、耳で聞いて、匂いを嗅いで、触って、自分の感覚で世界を感じる事が、感覚を鋭く繊細に磨きます。休日には、お子様と一緒に、近くを歩いてみませんか？

2 ふつうの子？

よく聞くことばの一つに「ふつうの子」があります。実際、「ふつうの子」って、存在するのでしょうか？一人ひとりを丁寧に見ていくと、どの子も得意と苦手があって、能力にも凸凹があって、「ふつうの子」なんてどこにもいません。だから「完璧な子」もいないし「どうしようもない子」もいません。

凸凹がある、ありのままのお子様を、まずはそのまま受け止めてあげてください。お子様が「受け止めてくれた」と感じたら、自分で、いろいろなことにチャレンジしていきます。

そうになったら、全力で応援してあげてください。応援は「〇〇させる」ことではなく、周りの環境を整えることです。チャレンジは、失敗がつきものですから、最後までやり遂げられなくても、チャレンジしたことを認めてあげてくださいね。

「環境」は、工作が好きなら空き箱を集める、絵が好きなら自由帳を用意、本が好きなら図書館… 特別な場に通わなくても、できることはいっぱい！

